

最近の日米同時株安について ～米長期金利上昇で市場は動揺～

楽読(ラクヨミ)

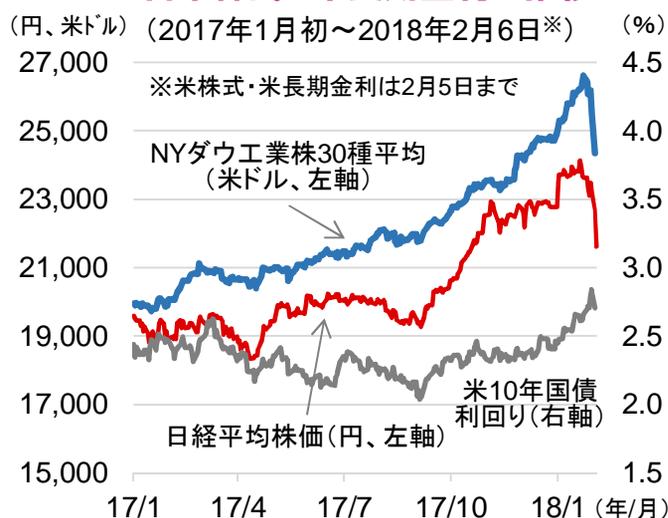
nikko am
fund academy

2月6日の日本株式市場では、日経平均株価が前日比1,071円(4.73%)安の21,610円と大きく下落し、今年最大の下落幅となりました。また、為替市場では、リスク回避的に円(対米ドル)が買われ、108円台へ円が上昇しました。

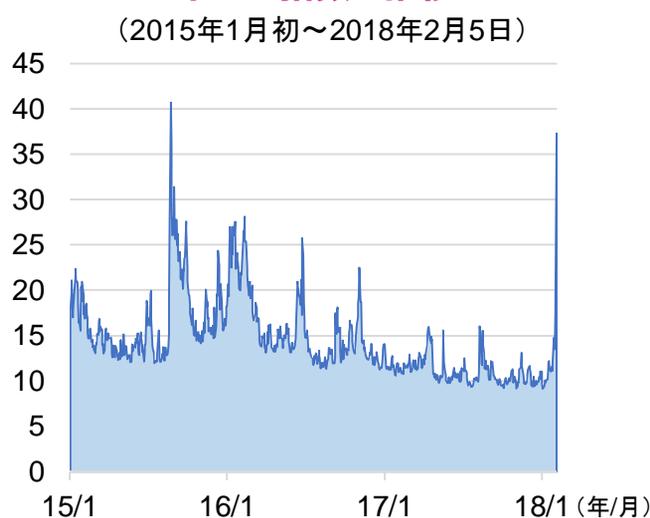
その背景には、足元で米長期金利が急上昇し、米国株式市場が大幅に下落したことがあります。昨年後半以降、米国で好調な景気が続く一方で、物価が緩やかな伸びにとどまったことから、米金利の上昇も緩やかでした。そうしたことから、世界の株式市場は、景気回復と低金利の共存「(いわゆる)適温相場」を好感し、堅調に推移しました。一方で、昨年末に成立した米税制改革法や、米国の堅調な景気見通しなどを背景に、米長期金利の上昇が続くなか、2月2日に発表された1月の米雇用統計において、平均時給が前年比2.9%増と市場の予想を大きく上回ったことから、消費拡大が物価上昇につながり、今後の利上げペースが加速するとの懸念が市場で高まりました。これを受けて、米10年国債利回りは一気に2.8%を超え、NYダウ工業株30種平均は2月2日と5日の2営業日で1,840.96米ドルの下落となりました。投資家心理を測るとされる米VIX指数(別名「恐怖指数」と呼ばれ、S&P500のオプション取引の値動きから算出されるボラティリティ指数)は急上昇し、中国の人民元切り下げで世界株式市場が急落した2015年8月以来の高さとなりました。

折しも2月5日に、パウエル氏がFRB(米連邦準備制度理事会)の新議長に正式に就任しました。金融政策に関してハト派的(利上げに慎重)とされる同氏ですが、米物価に上昇の兆しがみられるなか、利上げペースを速めるかどうか、難しいかじ取りを迫られるとみられます。就任後初のFOMC(米連邦公開市場委員会)は3月20～21日に予定され、それまでは米金利動向に不透明感が続く可能性があります。しかし、足元の米10年国債利回りは、世界的に低金利環境が続くなか投資家にとって魅力的とみられ、いずれ米長期金利は落ち着くとの見方もあるほか、世界経済の拡大基調を背景に、日米の企業業績は好調が続くと予想されていることなどから、市場の動揺が落ち着けば、株式市場は持ち直していくと期待されます。

日米株式と米長期金利の推移



米VIX指数の推移



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。